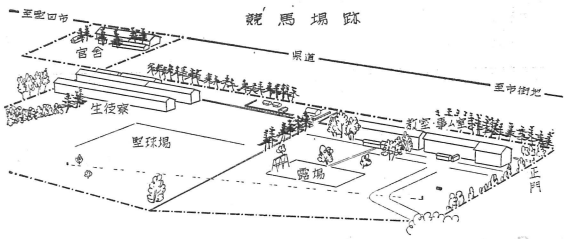
地方だより

―― 気象庁研修所 ――

飛行機からみた研修所全景



同上見取図

昨年押つまった12月27日，常磐線柏駅の西口が開通した．研修所は柏駅から普通に歩いて15分もあればつく．それ程遠距離という程のところではないが，東口から出ると，十中の八，九は踏切で止められる．15分が20分になり，運が悪いと，駅へは着いたが，研修所に着く迄に小一時間もかかることさえある．西口が出来てから，踏切を通らなくてすむので，時間的には便利になった．西口を出ると2，3分で，極く最近に舗装された新国道に出られるので，雨でも降ると悩まされる無類の悪道路を歩く距離も少なくなった．雨が降ればぬかるみ，晴れたと思えばほこり，これは昔のこと，西口が出来てから柏も面目を一新した．東京から講義に来られる講師の方々に御迷惑をかけることも少なくなった．

昭和26年4月に研修所が発足してから，養成所当時のような長いコースがなくなり，一番長いもので普通部の1年乃至半年，短いものでは講習部の各科の中で一カ月というような短期のコースもできた．従って研修生の入退所が頻繁になり，養成所当時のように年一回の卒業式，入所式というわけにはゆかなくなった．一年を通じて，あわただしい日を送っている．又本年4月から開講された通信教育のテキスト編集のため担当教官は忙がしい日を送っている．

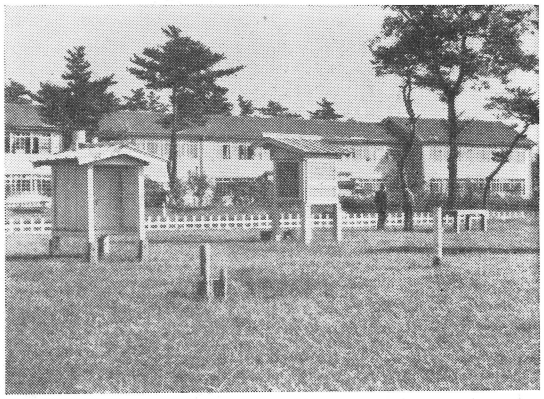
本年既に終った研修は講習部の高層観測科地震科（火山）専攻部の予報科などで，9月からは普通部，講習部の測器科（検定）テレタイプ科，10月からは講習部の海洋科（海洋化学），11月から本年2回目の予報科が開講される予定である．普通部を除き各科共，本庁や研究所の方々の講義時間が多いので，東京授業の日が週の中少なくも半分はある．

研修生は北は北海道のはて，南は名瀬，鹿児島からというように全国各地から日頃の多忙な業務をはなれ，当地で共に生活するわけで，或るときは曽っての同級生が旧交を温め，又域る時は僻地の業務を互いに話合うという具合に，研修以外日常業務の緊密をはかるという点においても意義が深いのである．研修生の中には既に子供が3人もあるというような年配の人達もおるが，みな再び学生時代のような若やいだ気分に帰って研修に精進しているのである．

当所の施設も次第に改善されつつあり，二年制の長期のコースも計画されているので，数年後には内容外観共に整備された研修所になり得るものと確信している．現在当所の寮（智明寮）には僅かながら気象職員の子弟の登校の便をはかるための施設もあり，又，ホテル？と称する室も用意されて居るので，中央，地方を問わず気象庁職員の方々の御利用をお勧めしておく．

今日から既に30年前に世界の先進国に先んじ，気象技術者の養成機関を設立し，本邦における気象技術者の位置の向上をはかられた，岡田，藤原両先生の偉業は，今日幾多の俊英を気象界に送っている．名称こそ異なれ，研修所が今後もすぐれた気象技術者を気象界に送るための当所としての役割は重要なものであるし，ただ座して成り行きにまかせるということであってはならない．

（池野四郎記）



露場から庁舎を望む